

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570102624		
法人名	医療法人 久幸会		
事業所名	グループホーム もみの木の家		
所在地	秋田市下新城野字琵琶沼158-6		
自己評価作成日	平成23年8月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成23年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

秋田県内初に開設した6名1ユニットのグループホームです。敷地内に病院、老人保健施設、保育園、配食サービス等、また近くには系列の歯科、整形外科があり、医療、福祉サービスの連携がとられています。
職員、入居者とも女性のみで、穏やかに楽しく生活しています。地域のボランティアの協力や研修の受入も多く、法人の職員や保育園児、地域の人やご家族の面会もあり、開放的な雰囲気です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が6名、職員が6名という、小規模で家庭的な雰囲気の事業所である。少人数のため、職員の勤務に早番・遅番がなく、その分日中手厚い支援が出来るので、日常的にボランティアを導入したり、外出レクリエーションの企画をしたり等、様々な工夫をして利用者の楽しみにつなげている。
法人は、医療機関、老人保健施設、ショートステイ用施設等幅広く事業を展開しているため、グループホームでの生活が難しくなったり、ターミナル期を迎えた場合等、生活の場の選択肢が多く、利用者、家族の大きな安心となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の運営方針と共に理念を作り、玄関に掲示し、出勤時に確認し常に意識するようにしている。またミーティング時や折りに触れ話し合うことで理念に基づくケアの実践を目指している。	法人の理念と事業所の運営方針を掲げ、職員は、優しい言葉かけをする、否定的な発言はしない等、常に理念を意識し支援を行う他、職員一人ひとりが自分の理念を発表する等、理念を形骸化させない取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアが月に4回程訪問し、手工芸やお茶会、茶話会等を行っている。また近隣の民家から山菜や家庭菜園の野菜をいただいたり差し上げたりというおつきあいをしている。また、保育園の園児との交流や法人全体の謝恩会や祭り等参加の機会も多い。	ボランティアによるお茶会や、法人全体の夏祭りへの参加等、地域の方と交流を図っている。また、ボランティアに夏祭りの浴衣の着付けを頼んだり、手工芸を習ったりと、ホームの運営に多くの方が自然に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	高齢者の健康管理や認知症の情報等を運営推進会議の参加者を通じて発信している。また認知症に関する書籍やDVDの貸し出しを町内用の新聞に掲載している。近隣の住民よりケアについての相談を受ける事もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、オープンな雰囲気の中で積極的に意見交換を行っている。委員の意見から入居に際しての一時金が不要な旨をパンフレットに記載するなどサービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議は、2ヶ月毎に年6回開催している。大震災後には災害に対する具体的な対応方法について話し合ったり、意見のあった認知症に関する図書の貸し出しを実行したり、会議の内容を活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの職員には運営推進会議に参加してもらっている。虐待のあるケースを入居につなげた事もある。また生活保護受給者には定期的に行政担当者の訪問がある。	運営推進会議のメンバーには、地域包括支援センターの職員も入っており、連携を図っている他、生活保護受給者への保護課担当職員の訪問の機会等に、市との協力関係を築いている。	行政担当者に運営推進会議の案内を出したり、グループホーム連絡協議会等を通して参加を働きかける等、連携や理解を深めるための継続した取り組みが望まれる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は8時半から17時半まで施錠していない。センサーも設置しているが数年使用していない。気分や状態を見極め、外へ出たい方には付き添いや後ろからの見守り等で対応している。法人内外の身体拘束に関する研修に参加している。	利用契約書に、「身体不拘束」を謳い実践している。ホーム内は施錠しておらず、居室から外に出られる造りになっている。現在、時折不穏になる利用者があるが、外に出たときはそと後ろからついていく等、無理のない対応の工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の虐待防止の研修に参加し、常に意識を高め、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外の権利擁護に関する研修に参加し、職員にフィードバックしている。法人の相談員と共に支援に結び付けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者と相談員と共に説明を行い、理解納得いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置と、公的窓口の掲示を行っている。面会時等には話しやすい雰囲気を作り、気軽に要望を話してもらうよう心掛けている。	苦情解決システムの周知を図る他、玄関に意見箱を設置している。利用者、家族等からは介護計画立案の際に要望等を聞いたり、定期的に「もみの木だより」を発行し行事や利用者の様子を伝えている。たよりを見た遠方の家族から手紙が届くこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時には意見を聞き、柔軟に取り入れている。年間事業計画の作成時にも全職員と話し合いの場を設けている。	月1回の職員会議の他、法人内に4か所あるグループホーム合同の職員会議も開催している。職員に文章で提案を提出させる等、意見を出しやすい環境を作っている。ケアカンファレンスの際には、職員から活発な意見が出され、支援や運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に自己評価を行い、個々の状況を把握している。それを基に面接を行い、向上心に繋がるようアドバイスがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数やレベルに応じた法人内外の研修に参加するよう積極的な働きかけがある。勤務扱いとなり、交通費や費用が発生する場合には法人が負担している。OJTも積極的に取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田市グループホーム連絡会の立ち上げから関わり、役員として勉強会や意見交換会、交流会を開催し、職員も参加している。法人内3つのグループホームとの交流も多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	1対1で、顔を見ながら話しやすい雰囲気を作り、十分に話を聞くよう心掛けている。初期の段階から信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの出来事等、ご家族が話す事を傾聴、受容する事で、早期の段階から信頼関係を築けるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や裁縫など家事や本人の得意な事を学んでいる。干し柿や漬物を一緒に作ったり、「お互い様」と言いながら職員のズボンのすそ上げをしてくれることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族等本人の得意なことや馴染みの習わし等を学んだり、干し柿や漬物等を共に作りながら教えてもらう場面がよくある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	茶話会時には積極的に回想法を取り入れ、思い出話を引き出している。その中から思い出の場所を訪れるレクリエーションに繋げている。また、馴染みの関係を継続出来るよう、実習生や退職・異動した職員も招き食事会を開催している。	茶話会時等に取り入れている思い出話では、昔の秋田市の話で盛り上がっている。また、本人の馴染みの人や場所との関係を継続させるため、思い出レクリエーションとして、馴染みの場所を訪問している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が良好な関係を築けるよう、常に見守りして、場合によっては仲介している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病棟に入院後も時々顔を出し様子を見させてもらっている。また契約終了後のご家族が、その後も運営推進会議に協力してくれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中や毎月のモニタリングで本人の希望を聞いたり、生活歴やご家族からの情報などを通し、職員間で話し合いながら本人の立場にたち支援に活かす努力をしている。	居室での会話や食事、入浴等の機会を捉えて利用者の意向の確認をし、月に1度のモニタリングに反映させている。「こんなものが食べたい」「少し腰がいたいんだけど」等、小さなことも聞き逃さないように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から、場合により担当ケアマネから生活歴を聞き、一人ずつケースファイルにまとめている。それまでの生活スタイルを可能な限り継続し、自分らしさが引き出せるよう情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りやカンファレンス等で現状の把握に努めている。能力を活かしつつ、安心して、より良く生活できるよう、常に状態観察をしながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式やケアチェック表等を利用し、アセスメントを行っている。情報はスタッフ間で共有できている。月1回のモニタリングと、必要時と月1回、スタッフ全員でカンファレンスを行い、それを介護計画に活かしている。	月に1度、または随時に職員全員でケアカンファレンスを行っている。利用者一人に職員一人の担当制をとっており、ケアカンファレンス時に出た意見を参考に、計画担当者や利用者担当者が計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の行動記録、フォーカスチャーティングを記録している。それを基に申し送りやミニカンファレンスを行い、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な地域ボランティアによる訪問や、レクリエーション時の付き添いをしてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に協力医療機関等の説明を行っている。希望を伺い、病状に応じて他の医療機関を受診している。受診の際には他部署の送迎車両の協力を得ている。	法人内に医療機関があるため、入居時に希望を聞き、ほとんどの方が法人の医療機関を受診している。受診の結果は、家族に報告し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常よりささいな変化も見逃さないよう状態観察をおこなっている。毎日看護師に状態報告や相談し、その上で受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当相談員や看護師と連携し、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で、主治医や相談員を交え、終末期ケアについての話し合いが、もたれている。変化に対しては、主治医、看護師、相談員等と連携しつつ対応している。	同法人内に医療機関や老人保健施設、ショートステイ施設等があり、ホームでの生活が難しくなったり、ターミナル期を迎えた場合は、その後の生活の場の選択肢が多く、利用者、家族の安心につながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成している。対応できるようシミュレーションを行っている。入居者と共に避難訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に法人と合同で災害避難訓練を実施している。緊急時には法人からの協力体制もある。ホーム内でも年間計画を立て、避難訓練を実施している。	法人全体の避難訓練を年2回実施している他、ホームの避難訓練を毎月行っている。その際は、事前にビデオを見て気持ちを訓練に向けてから行うように工夫している。大震災後、地震発生マニュアルを新たに作成している。スプリンクラーの設置については、現在検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳を尊重した対応に努めている。個々の状況に応じ、言葉の使い方や1対1での対応等工夫して行っている。個人情報には鍵のかかる棚に保管し取扱いに配慮している。	個人情報の取り扱いについては、入居時に説明をして同意を得ている他、写真の顔出しについても同意を取る等、配慮している。居室は外から見えないようになっており、書類も鍵のかかる所に保管する等、プライバシーが保たれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせ、穏やかな対応をして、感情表現しやすい関係を作っている。日々の生活の中からは希望を引き出すよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務内容に余裕をもたせ、業務優先ではなく、個々のペースや希望に添った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	法人内の美容院の利用の援助をしたり、希望によりスタッフが髪染めを行っている。個々の状況に応じて、本人の希望する洋服を、季節に合わせて着用できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切りや皮むき、配膳、後片付け等個々に応じて共に行っている。職員は共に食事をし、和やかな雰囲気になるよう会話している。必要に応じ、さりげない援助をしている。外食や行事食を取り入れたり、天気の良い日は屋外で食べることもある。	法人の栄養士が、栄養、塩分等に考慮したメニューを作成している他、利用者に食べたいものを募り反映させている。大きなひとつの食卓を利用者と職員が囲み、和やかに食事をしていることが確認できた。後片付けも、一人ひとりが自然に下膳している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎食事記録し把握している。個々の状態にあわせ、量や形態に配慮した食事を提供しよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で口腔ケアが行えるよう支援し、不十分なところがあれば介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、状況に応じて声掛けや誘導を行っている。	リハビリパンツの着用者が、利用者の半数いる。排泄パターンをチェック表で把握し、自然な声掛けで誘導、排泄支援を行っていることが確認できた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便習慣を把握し、確実に排便されているか記録している。繊維の多い食品、ヨーグルトや牛乳、朝食前の冷水等を取り入れ、軽運動を行い、便秘の予防に日々努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態を確認した上で、週に2~3回は入浴してもらっている。手作りののれんを掛けて、「もみの木温泉」と名づけ楽しんで入浴してもらえるよう工夫している。拒否が見られても、声掛けやタイミングの工夫で対応している。	一番風呂を好む利用者が多く、順番や時間帯を工夫している。また、入浴を好まない場合は、声掛けのタイミングを図り、入浴に結び付けている。入浴チェック表で、回数等の確認、把握を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に応じて、自室でゆっくり休んでいただけるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を記録し、目的や用法について理解している。看護師との服薬確認を行い、症状の変化がないか観察し、変化を見逃さないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や、得意とすること、できる事等を把握しながら、生活の色々な場面で能力を発揮でき、自信と生きがいを感じられるよう支援している。また、毎日の体操や季節の行事やレクリエーションを取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	天気の良い日は、散歩や日光浴をしたり、戸外での茶話会を積極的に行っている。また、1対1の対応ができるよう地域のボランティアの協力を得て、月平均1~2回外出レクリエーションを行っている。その際には、懐かしい店や馴染みの場所等、希望を取り入れるようにしている。	法人内に地域交流課があり、ボランティア等の取りまとめを行っている。全利用者で外出する場合は、職員、運転担当の他、ボランティアの協力を得て、1対1の対応で、安全を確保できるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	レクリエーションでの買い物時や散歩がてらの病院売店での買い物時には、一人一人の力に応じて使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援しながら電話してもらったり、年賀状等をだしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々や季節感を味わう飾り物、手作りの壁掛けやのれん等で安心して心地よく過ごせる工夫している。快適な環境を保つよう日々心がけている。	リビング、食堂、活動場所が一体となった空間は、採光や風通しもよく、気持ちよく過ごせる場所であることが確認できた。事業所の方針であり、ホームには事務室がないので、職員間の話し合いや休憩用としての場所の確保が難しい状況である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	居間にソファや椅子等を多めに置き、それぞれが気分に応じて過ごせるよう配慮している。少し離れた食卓も使用している。時には居室で話し合う場面も見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや、家族の写真、思い出の品等本人が見覚えのある物を置き、心地よく過ごせる居室にしている。ご主人の写真に毎日水をあげ手を合わせる姿が見られる。	居室には、利用者が使い慣れたタンス等が持ち込まれ、雰囲気等も画一的ではなく、個性的であることが確認できた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなどには手作りの案内を掲示している。ホーム内はバリアフリーで、廊下やトイレ内浴室には手すりを設置し、安全に身体機能を活かせる環境作りを心掛けている。		